



原田 健志

### 町の課題解決に向けて (年度途中での人事異動に関連して問う)

**問** 年度途中の人事異動について、総務部・教育委員会の各々の部署には、解決が急がれる課題がある。私は、今まで以上にこれら課題の解決を確実に加速できるとの判断があったもの、との期待を込めて町長の考えを伺う。

**答** 今回の人事異動は、十二月に入り、私の任期も半ばを過ぎ、両者のそれぞれ別の持ち味を生かして山積する課題の解決をスピード感を持って確実に進めたいという、その各部の活性化を優先した結果であり、このタイミングでなければならぬというような形で判断をし、人事異動を行った。

**答** ①人材の育成・活躍 外部人材を活用し地域づくりの機運醸成を図り、女性を初めとする多分野多様な人材を結集し、コミュニティの組織化を図られている。

今後、取り組みを広く情報発信し、体験イベントの開催など、交流、連携を促進し、地域全体で相乗効果を高める。

②ビジネス志向を持った地域資源の活用 研究会において、農産加工品の製造、体験プログラム等の研究等を行い、複数の試作品が完成している。しかし商品化に当たって一定の時間を要する。

今後、ニーズ調査、テストマーケティング等の社会実験等を通じて具体的な課題整理を行っていく必要がある。

進めている。危機管理部署の創設は、委託開始に伴い、一部機構を見直す必要があるため、しかるべき時期に示す。

また、自主防災組織については、その重要性は十分認識している。地域に根づいた区と地元消防団との連携こそがより継続性ある防災組織になり得ると認識している。

#### 教育委員会

**問** 今年度の全国学力・学習状況調査の分析結果から見てとれる道徳的課題の認識について

**答** まず能勢の子ども達が経年的に改善されたかを検討すべきと考え。しかし、これまで大切であると考え取り組んできた心の育ちの部分で後退する結果があらわれている。各校の道徳教育や人権教育といった心を育む教育の取り組みについて自尊心を高めることを中心的な視座として、今一度見直す必要がある。

## 一般質問



大平喜代江

### 地域総合力が支える 能勢町のまちづくり

「自助、共助、公助」が強調される中、地域の課題について、住民と行政が双方向に理解を深め、共に考え、知恵を出し合うことの必要性を痛感し、能勢町住民と町行政との協働のあり方について問う。

滑に進める役割を担っている。

**問** 区、自治会単位に住民・関係団体等が協働・連携し、一体感を感じることができるような地域活動の推進及びその具体的な取組みと成果について

第2次能勢町地域福祉計画の基本目標の一つとして、ともに助け合い、支え合う地域づくりを掲げ、その中で地域のつながりの強化を方向性として位置づけている。具体的な取組みの例としては、ふれあいフェスタ、敬老会の開催や社会福祉協議会への委託事業としての小地域ネットワーク活動、ひとり暮らし高齢者等への見守り訪問、あるいは民生委員・児童委員協議会における地域に密着した相談や訪問事業などが上げられる。このような取組みを通じて、少しずつではあるが地域のつながりが強化され、地域の住民が一体感を感じることもできるまちづくりを推し進めている。

**問** 能勢町の行政区の位置づけ及び区長の役割について

**答** 多くが旧村の単位で構成される本町の44区は、住民自治を円滑に推進するために必要とされている。住民の福祉の増進を図るためにならなければならない。区長は、我々行政と対等な立場でかつ相互補完によって公共的活動の推進と住民福祉の向上に多大な御尽力をいただくなど、各区、地域における住民自治を円